

平成 18 (2006) 年度 横浜市青少年育成協会事業

経営方針

1 協会の基本使命と役割

財団法人横浜市青少年育成協会の使命は、「次代を担う青少年の主体性や創造性を育みつつ、心豊かな成長を図るため、市の施策と連携し、学校、地域や市民団体、企業等と協働し、諸事業を行い、もって青少年の育成に寄与することを目的とする。」(寄付行為第 3 条) 点にあります。この使命を達成するには、横浜市が策定した「横浜市青少年プラン」(平成 16 年 7 月) に基づきながら、当協会の活動の柱を次の 4 点におき事業を展開します。

- A 青少年に体験機会を提供する
- B 情報提供等により青少年をとりまく地域社会を育てる
- C 協働により青少年の育成主体を支援する
- D 財務・組織基盤の充実

2 平成 18 年度の特徴

17 年 2 月に発足した当協会は、設立 2 年目を迎えます。18 年度における当協会の条件を整理すると、次の 3 点が重要となります。

(1) 施設の指定管理者として

前年度、横浜市の青少年施設すなわち、横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター、横浜こども科学館の 4 施設の指定管理者としての指定を当協会は受けることができました。18 年度は、5 ヶ年の指定期間の最初の年に当たります。横浜市と締結した、「指定管理者基本協定」に則り、4 施設の管理運営を着実にを行い、利用者満足度の向上と効率的な経営を図ります。

(2) 特定協約団体としての経営改善

18 年度から、当協会は、「特定協約団体」として 6 つの経営目標を掲げた「協約」や「経営改善行動計画」を横浜市と締結しました(平成 18 年 3 月)。この協約に基づき、効果的効率的な協会経営に取り組んでいきます。

(3) 所管局の変更

当協会の所管局はこれまで市民局でしたが、18 年度からは横浜市の局再編により新たに誕生する「こども青少年局」に代わることになりました。青少年行政のより総合的な施策展開が期待されるとともに、今日の青少年の課題に応える当協会の新しい事業展開も求められています。

3 18 年度の重要テーマ・・・11 プロジェクトに挑戦

指定管理者や特定協約団体として、当協会の 18 年度の重点テーマを次の 3 分野において集中的に展開し、11 のプロジェクトに挑戦します。

(1) 魅力ある事業展開

青少年体験活動推進センター(交流センター)

青少年にボランティアなどさまざまな体験活動の場を紹介することで、青少年自身が社会の中

に自分の居場所を感じることができるよう取り組みます。

青少年指導者・NPO情報センター（仮称）（育成センター）

青少年育成活動に取り組む指導者、育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮していきます。

こども科学館宇宙劇場の全天周映像投影装置の導入

プラネタリウム投影機の周辺機器の更新を図るため、「全天CGシステム」を横浜市が導入します。これにより、静止画中心であった映像から動画を中心とした臨場感あふれるダイナミックな映像が提供でき、観客の増加につなげます。

放課後キッズクラブの充実

すべての子供たちを視野に入れ、原則として小学校施設を活用して、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた、安全で快適な放課後の居場所を提供します。

（２）新たな課題への挑戦

地域こども教室の展開（こども科学館）

地域の子供たちを対象に、実験工作教室や天文教室、自然観察会などを、地域、学校、NPO、企業と連携して実施します。

青少年居場所づくり支援事業（交流センター）

全市的に青少年の居場所を広げていく取り組みを、横浜市からの受託事業として実施します。

ニート・フリーター対策への取り組み

青少年の新たな課題になっている、ニート・フリーター対策を横浜市と連携し、さまざまな専門機関やNPOとのネットワーク化を進めます。

（３）不断の経営改革

施設の利用者数増加への様々な工夫

こども科学館の年間入館者30万人をはじめ、4つの青少年施設利用者の増加に向けて、積極的な広報や魅力的事業の開催など様々な工夫を行います。

愛称・シンボルマークの策定とホームページなど広報の充実

昨年度から公募中の当協会の愛称・シンボルマークを確定するとともに、ホームページの充実、「ボランティア横浜」など情報紙の充実を図り、1,400名の会員はもとより広く青少年・市民に親しまれる協会を目指します。これらにより、ボランティア基金など自主財源の一層の充実に努めます。

第三者評価システム設計と試行

事業の実施効果などについて、内外から客観的な評価を受け、改善し、よりよい施策を展開するため、第三者も含めた事業評価の仕組みを試行実施します。

組織・事務・人事給与制度検討チームの設置と試行

人件費の見直しのため、検討チームを設置し、能力開発・モラル向上策も含めた検討案を作り試行実施します。

4 元気な横浜の青少年と活力ある協会作りに向けて

・・・「中期活動計画」の策定

横浜市の財政状況の厳しさが続く中で、青少年の元気を引き出す事業や仕組みづくりが、様々な主体による協働の力の発揮により求められています。市内各地の子ども若者プロジェクトを応援す

るコーディネータの役割はますます高まっています。当協会は、現在、18年度を初年度とする5
カ年計画を作成中です。「こども・若者生き生きチャレンジ応援プラン」(仮称)としてこれらに応え
ていきます。

指定管理事業

1 横浜市青少年育成センター

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(1)	青少年指導者・育成者の活動の場の提供	青少年指導者・育成者の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を、できる限り制限を設けず貸し出します。				
(2)	青少年活動団体の事務局機能支援	団体が活動していくため、印刷機、作業用コンピューター、軽作業の場として、活動支援室を提供します。				
(3)	青少年指導者・NPO情報センター(仮称)事業	ア 情報収集提供、相談、コーディネート 青少年育成活動に関する情報を提供するため、情報の収集を行うとともに、収集した情報のデータベース化の準備を行います。また青少年育成活動の相談などに対応していきます。 イ 講座・研修 青少年活動に必要なスキルや青少年育成に関する講演・講座、NPOマネジメントについての研修や講座を実施します。他機関が主催する研修事業についてもPRを行います。 ウ ネットワーク支援 青少年育成団体やNPOなど青少年に関わりのある団体相互の交流、ネットワークを推進します。 エ 地域活動支援 職員や専門スキルを有するボランティア等を地域活動に講師として派遣し、青少年育成活動のノウハウを提供します。また地域での青少年活動支援のための物品貸出を行います。				
(4)	青少年4施設での青少年対象事業	親子で参加できる体験事業や、就労体験など青少年体験事業を協会が管理運営を受託する施設で実施します。各施設の特性を活かし、ノウハウを共有化することで、事業の充実と参加者の増加を図ります。				
(5)	ボランティア基礎講座	子ども・青少年を対象としたボランティア活動を行っていく上でのスキルや考え方について、実習を通して理解を深めていく初歩的な研修を実施します。また研修受講者が協会事業や地域活動に参加していけるよう、フォローしていきます。「青少年指導者・NPO情報センター(仮称)」の機能として実施します。				
(6)	青少年4施設で実施する講座・研修を活用した総合的な指導者養成カリキュラムの企画	青少年4施設が実施する講座・研修会及び、活動の場の提供を活用し、施設間連携事業の一環として指導者養成カリキュラムとして企画します。				
(7)	広報出版事業	青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を施設連携により行います。				
(8)	協会ホームページによる情報提供(含:協会が管理運営を受託する施設のホームページ)	インターネット媒体を通して、事業案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動の支援などを行います。 各施設と連携しながら情報を更新し、市民、団体等にわかりやすく提供します。				
(9)	協会の事業への企業協賛の獲得	自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うため企業協賛の獲得に努めます。				
(10)	運営の検証と改善(運営委員会)	センター利用者、青少年育成活動者、NPOや協会職員で構成する委員会で、青少年育成の拠点施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効果的な運営のための見直しを行います。				
(11)	施設の維持・管理	安全・安心・安定性を確保する施設の維持・管理を行います。				

区分 / A: 青少年に体験機会を提供する B: 情報提供により青少年をとりまく地域社会を育てる
C: 協働により青少年の育成主体を支援する D: 財務・組織の基盤の充実

詳しくは、別添の事業体系図参照

2 横浜市青少年交流センター

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(1)	青少年委員会の充実	交流センターを利用する青少年の声を施設運営に活かすとともに、青少年のニーズを基にした自主活動の中核として活動する青少年委員会をさらに充実し、交流センターの運営や事業への青少年の参画を図ります。				
(2)	青年ボランティアの養成	交流センターの季節ボランティア事業参加者を中心に、日常的にセンターで活動し、また季節ボランティアのリーダーとして活動するユースボランティアの養成に取り組めます。 施設連携事業として、4施設が連携することにより体制を確立します。				
(3)	ロビーワークの充実	ロビーワークの充実のため、施設スタッフのスキルアップ、ローテーションの改善、居場所感の質的向上に取り組めます。 ロビーワーク:スタッフによる、ロビー(フリースペース)に集まる利用者たちのかかわりや、そこで行われる様々な業務を総称してロビーワークと呼んでいます。				
(4)	場の提供	ア 自主的な活動の場 青少年の活動拠点として、できる限り制限を設けず会議室、スタジオなど、部屋の貸し出しを行います。また、青少年の自主的な活動が充実するよう支援を行います。 イ 多様な個別支援の場 ロビーワーク、参加者を限定しない親睦を目的とした事業(フラットCafe)などの自立支援事業や、青少年の課題に取り組む専門機関との連携、青少年体験活動推進センターとの連携などを通して、青少年に対する多様な個別支援を行います。 ウ 社会性を身に付ける場 ロビーワークを活用し、異年齢のコミュニティーの場の提供を行います。また、ボランティア活動の場の提供などを行います。 エ 地域や保護者との連携と交流の場 施設の利用者同士の交流事業や成果発表会、地域での体験を通じて大人と出会い相互理解を深めるための交流事業、親子で参加できる体験事業などを行います。 オ 将来について考えていける場 事業参加や、ロビーワークを通して、青少年が自分自身を見つめなおし、社会へのつながりを感じられる支援を行います。また就労体験や技能に触れる体験を通して、将来の目標を見つけるきっかけを作る体験事業を行います。				
(5)	青少年4施設での青少年対象事業	親子で参加できる体験事業や、就労体験など青少年体験事業を協会が管理運営を受託する施設で実施します。各施設の特性を活かし、ノウハウを共有化することで、事業の充実と参加者の増加を図ります。				
(6)	青少年4施設でのボランティア活動の場の提供	協会が管理運営を受託する各施設でボランティア活動の場の提供を行うとともに、ボランティアを育成します。				
(7)	青少年4施設で実施する講座・研修を活用した総合的な指導者養成カリキュラムの企画	青少年4施設が実施する講座・研修会及び、活動の場の提供を活用し、施設間連携事業の一環として指導者養成カリキュラムとして企画します。				
(8)	広報出版事業	青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を施設連携により行います。				
(9)	協会ホームページによる情報提供(含:協会が管理運営を受託する施設のホームページ)	インターネット媒体を通して、事業案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動の支援などを行います。 各施設と連携しながら情報を更新し、市民、団体にわかりやすく提供します。				
(10)	協会の事業への企業協賛の獲得	自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うため企業協賛の獲得に努めます。				
(11)	運営の検証と改善(運営委員会)	運営委員会を設置し、青少年の居場所推進施設のセンターとしての機能がより効果的に発揮されるよう、総合的な視点に立って取り組みを検証・評価するとともに改善について検討を行います。				
(12)	施設の維持・管理	安全・安心・安定性を確保する施設の維持・管理を行います。				

3 横浜市野島青少年研修センター

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(1)	集団宿泊体験の場の提供	施設の特長を生かし、現代の青少年に不足していると言われる「自ら直接体験する機会」を、集団宿泊体験を通じて青少年に提供します。				
(2)	講座・研修会	青少年活動団体のリーダーが、プログラムを企画・進行できるような講習会(野島スキルアップ講習会)や、利用団体を対象とした定期的なワークショップを開催します。				
(3)	自然体験・交流事業	遊びを中心とした異年齢間の交流事業(野島ふれあいランド)や、野島の自然を生かした自然体験事業(バードウォッチングin野島)を行います。				
(4)	青少年4施設での青少年対象事業	親子で参加できる体験事業や、就労体験など青少年体験事業を協会が管理運営を受託する施設で実施します。各施設の特性を活かし、ノウハウを共有化することで、事業の充実と参加者の増加を図ります。				
(5)	青少年4施設でのボランティア活動の場の提供	協会が管理運営を受託する各施設でボランティア活動の場の提供を行うとともに、ボランティアを育成します。				
(6)	自然体験プログラムの研究・開発・相談・提供	利用団体がより充実した研修を行えるよう、これまでのノウハウをもとに、野島ならではの自然や施設を活かしたプログラムの提供に取り組みます。				
(7)	活動相談体制の強化	これまでに蓄積した情報や他施設・他団体とのネットワークを生かし利用団体が充実した研修を実施できるように、体制を強化します。				
(8)	青少年4施設で実施する講座・研修を活用した総合的な指導者養成カリキュラムの企画	青少年4施設が実施する講座・研修会及び、活動の場の提供を活用し、施設間連携事業の一環として指導者養成カリキュラムとして企画します。				
(9)	青少年4施設での地域等との連携事業	オールクリーン野島ビーチ2006 身近な自然を保全するため、野島を拠点に活動するボランティア・市民活動団体と協働で横浜市内に唯一残る自然の砂浜「野島海岸」を清掃します。				
(10)	広報出版事業	青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を施設連携により行います。				
(11)	協会ホームページによる情報提供(含:協会が管理運営を受託する施設のホームページ)	インターネット媒体を通して、事業案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動の支援などを行います。 各施設と連携しながら情報を更新し、市民、団体等にわかりやすく提供します。				
(12)	金沢区災害ボランティアネットワークへの参加と支援	金沢区の地域拠点・災害時の拠点のひとつである研修センターという立場でネットワークに参加することで、災害時の研修センターのあり方を確認するとともに、地域施設としての働きをアピールしていきます。				
(13)	「金沢水の日」実行委員会への参加と支援	自然の水環境豊かな金沢区内の「平潟湾」周辺の水辺で活動する市民団体が集まり、金沢の豊かな水環境をより健全な姿で次世代に引き継ぐためのイベントを実施します。				
(14)	協会の事業への企業協賛の獲得	自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うため企業協賛の獲得に努めます。				
(15)	運営の検証と改善(アンケート調査)	利用者に対するアンケート調査を実施することにより、研修センターの改善について検討します。				
(16)	施設の維持・管理	安全・安心・安定性を確保する施設の維持・管理を行います。				

4 横浜こども科学館

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(1)	体験できる展示物の展示・メンテナンス・開発・改良	約200点の常設展示物について、日々のきめ細かなメンテナンスを行うことで、その性能を維持します。また、より性能を高めていくためことを研究し、良好な維持管理を行います。				
(2)	夏休み特別展	夏休み期間中に、水の科学と遊びをテーマに、水を使った実験や遊具を体験できる特別展を開催します。				
(3)	夏休み・年末年始特別プログラム	夏休み特別プログラム 自由に閲覧できる実験ショー、ワークショップ、大道芸ショーなど見学者と一体となって楽しい参加型ステージを作ります。5階キャプテンシアターで開催します。 年末特別プログラム クリスマスやお正月をテーマにした、家族で楽しめる参加型イベントを5階キャプテンシアターで開催します。				
(4)	科学実験ショー	科学の楽しさ、おもしろさをライブで体験できるよう5階キャプテンシアターで毎月演目を変えてサイエンスショーを、2階スペースラボでいろいろなテーマのミニ実験ショーを実施します。				
(5)	宇宙劇場の管理運営	スライド投影機等の補助投影機を全天周デジタル映像投影機に更新し、新たなプラネタリウム空間をダイナミックに演出します。 また、宇宙劇場の保守管理を行い、引き続きプラネタリウムの安定した投影に努めるとともに、番組内容の充実を図ります。 ア 一般用プラネタリウム番組の制作 平成19年4月から投影する番組及び19年9月から投影する番組2本を制作します。 イ ちびっこプラネタリウム 平成19年4月から投影する幼児・低学年向けの番組を制作します。 ウ プラネタリウム番組の投影 (ア)一般用プラネタリウム番組を投影します。 (イ)ちびっこプラネタリウム番組を投影します。 (ウ)学習用プラネタリウム番組を投影します。				
(6)	企画展	特別展示室を活用し、年間を通して企画展を実施します。常設展示とは異なるテーマや展示形態を取り、様々な角度から科学の不思議、面白さに触れてもらう機会を提供します。				
(7)	ゴールデンウィーク、夏休みイベント	来館者が多いゴールデンウィークと夏休みに、幅広い年齢層に対応したワークショップ形式の参加型のイベントを実施し、楽しい科学館を演出します。				
(8)	コンピューター教室	コンピューターの正しい知識や基本操作、プログラミング技法を学ぶために、低学年向けの教室を開催します。				
(9)	実験工作教室	もの作り体験を通じて、道具の使い方などの工作の基本と科学知識を習得します。事前に募集して1日かけて取り組みます。				
(10)	体験スタジオ	1時間程度でできる簡単工作や科学遊びを通して科学体験できる場を提供します。参加希望の多い小学校低学年からを対象とし、気軽に参加できるように当日受付とします。				
(11)	天文教室	天体望遠鏡やピンホール式プラネタリウムを自分で制作しながら、その仕組みや構造を理解する教室の実施や、天文現象を見るための観望会を実施し、星空に親しむ機会を提供します。				
(12)	講演会	科学への興味、関心を深めるため、親子を対象とした講演会等を開催します。				
(13)	サイエンスキャンプ	小中学生を対象に、野外での自然観察、天体観測などを通して科学知識の普及を進めるとともに、事業をサポートするボランティアの育成を図ります。				
(14)	地域子ども教室	NPOや地域との協働により、地域の子どもたちを対象にした半日単位のプログラムを土曜日を中心に実施していきます。				
(15)	青少年4施設での地域等との連携事業	ア 洋光台サイエンスクラブ 科学館近隣の子ども達が、科学をテーマにしたいろいろな催しに参加し、大人や仲間とのふれあいを通じて、健全な成長が図れるよう各種事業を実施します。 イ めざせ！マジシャン プロのマジシャンによる「マジックショータイム」とプロが教える「マジック体験スタジオ」の2部構成でNPOと連携事業として実施します。				
(16)	青少年4施設で実施する講座・研修を活用した総合的な指導者養成カリキュラムの企画	青少年4施設が実施する講座・研修会及び、活動の場の提供を活用し、施設間連携事業の一環として指導者養成カリキュラムとして企画します。				

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(17)	広報出版事業	青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を施設連携により行います。				
(18)	協会ホームページによる情報提供(含:協会が管理運営を受託する施設のホームページ)	インターネット媒体を通して、事業案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動の支援などを行います。 各施設と連携しながら情報を更新し、市民、団体等にわかりやすく提供します。				
(19)	青少年4施設での青少年対象事業	親子で参加できる体験事業や、就労体験など青少年体験事業を協会が管理運営を受託する施設で実施します。各施設の特性を活かし、ノウハウを共有化することで、事業の充実と参加者の増加を図ります。				
(20)	青少年4施設でのボランティア活動の場の提供	協会が管理運営を受託する各施設でボランティア活動の場の提供を行うとともに、ボランティアを育成します。				
(21)	科学館の売店・利用者駐車場運営	科学館の売店・利用者駐車場の運営を、来館者の利便およびサービス向上ならびに自主財源確保を目的として実施します。				
(22)	協会の事業への企業協賛の獲得	自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うため企業協賛の獲得に努めます。				
(23)	運営の検証と改善 (アンケート調査・モニター活動評価制度)	ア アンケート調査 来館者のニーズや動向の意識調査を行い、科学館運営に役立てます。 イ モニター評価制度 公募モニターにより、事業や運営についての評価・検証を行い事業の改善・強化を図ります。				
(24)	施設の維持・管理	安全・安心・安定性を確保する施設の維持・管理を行います。				

協会本部事業

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(1)	海・ふれあい体験プログラム事業	市内の施設を利用し、楽しみながら空や海に触れ、横浜や自然に愛着がわくきっかけを小学生や中学生に提供するとともに、異なる学校参加者同士のふれあいを通じて青少年の視野を広げていきます。 協会が管理運営を受託する各施設の連携事業として実施します。				
(2)	夏！市民活動体験塾	青少年が市民活動に関わることで豊かな個人として成長するとともに、市民活動団体は青年をメンバーとすることで、活性化し、ひいては市民活動が発展するという環境を作ることを目的に、横浜市市民活動支援センターと共催で実施します。				
(3)	さわやかフレンドキャンプ	青少年の国際交流の場として在日外国人児童生徒(外国につながるのある児童生徒)と日本人中学生との交流キャンプを横浜青年国際人倶楽部と共催で実施します。				
(4)	野島クリスマスキャンプ	横浜市内小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒に生活体験の場を提供するとともに、青年ボランティアがさまざまな個性の理解を深めてもらうことを目的に、団体(実行委員会)と協働で実施します。(実行委員会支援)				
(5)	ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル2006	高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進する同事業を、共催団体の一員として実施します。				
(6)	青少年4施設での地域等との連携事業	不登校児童生徒支援事業 横浜市教育委員会と協働して、適応指導教室「ハートフルスペース」の児童生徒を対象に宿泊体験事業を実施します。				
(7)	青少年体験活動推進センターの運営	青少年交流センターに推進センターを設置し、青少年に様々な体験活動の場を紹介することで、青少年自身が社会の中に自分の居場所を感じることができるように取り組んでいきます。 ア 体験活動・学習相談・コーディネート イ 体験活動情報収集・提供 ウ 小学校「体験学習」におけるボランティア紹介 エ 他機関、団体との連携 オ センターPR				
(8)	青少年が直接体験するための事業(A・I・U)の企画運営への青少年の参画推進	「海・ふれあい体験プログラム」、「夏！市民活動体験塾」などの事業の企画運営に青少年が参画できる仕組みを作ることにより、ボランティア体験活動機会を提供します。				
(9)	青少年4施設での場の提供	青少年4施設でボランティア体験ができるよう、運営や事業実施方法を工夫し、ボランティア活動の場の提供を行います。 ア 季節ボランティア(交流) イ 野島ボランティアスタッフ(野島) ウ サイエンスキャンプ(科学館) エ 展示ボランティア(科学館) オ 天文ボランティア(科学館)				
(10)	放課後キッズクラブの運営	すべての子どもたちを視野に入れ、原則として小学校施設を活用して、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた、安全で快適な放課後の居場所を提供します。また、当協会がもっている青少年育成事業のノウハウや人材などを積極的に活用しながら、保護者をはじめ市民、ボランティア、市民活動団体、そしてキッズクラブに参加する子どもたちと協働して、安全で快適な放課後の居場所を作り上げていきます。 小学校施設をはじめプレイパーク、文化施設、青少年施設などの施設を活用し、ネットワークの構築を推進していきます。				
(11)	放課後児童育成に係る保険事業	市内の小中学校にある放課後キッズ及びはまっ子ふれあいスクールに参加する子どもたちが、安心して活動できるよう障害保険制度を提供します。				
(12)	不登校・ひきこもり支援団体、組織の支援	横浜市教育委員会が行う適応指導教室(不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生活指導)の場として、横浜市青少年交流センターを提供します。また横浜市教育委員会と共催で宿泊体験事業を実施します。				
(13)	フリーター・ニート対策事業	青少年の新たな課題になっている、フリーター・ニート対策を横浜市と連携し様々な専門機関やNPOとのネットワークを図り進めます。				
(14)	子どもの遊びサポート事業	地域の公園などで子どもの冒険遊び場をサポートする市民活動団体と連携しながら、子どもの遊びにかかわる担い手となるボランティアを育成し、地域や学校などさまざまな青少年育成の場に参加するきっかけを提供します。				

No.	事業名	内容	区分			
			A	B	C	D
(15)	青少年育成情報紙「ボランティア横浜」の発行	青少年育成活動情報紙として、青少年育成に取り組んでいる関係者などを対象に、青少年に特化した情報を提供し、青少年育成活動の活性化を促します。情報紙の名称の変更を予定しています。				
(16)	学校教育と連携した地域人材の活用システム事業の推進	学校教育における地域人材の活用を進めていくため、学校と地域をつなぐ地域のコーディネート機能を構築し、コーディネーター組織を養成します。事業実施にあたり、実行委員会を組織します。				
(17)	PTA新聞づくり講習会	PTA広報誌に必要な新聞づくりの基本について、講義と演習、作品コンクール等を行います。 なお、会員は参加費を割り引くことで、会員拡大事業としても位置付けます。				
(18)	広報出版事業	青少年育成活動に取り組む団体へのノウハウや情報提供のために、青少年育成、科学の普及等を目的とした広報出版を施設連携により行います。				
(19)	協会ホームページによる情報提供(含:協会が管理運営を受託する施設のホームページ)	インターネット媒体を通して、団体の概要、協会事業、研修案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動の支援および協会のPRを行います。 各施設と連携しながら情報を更新します。経営情報などについても会員、市民、団体にわかりやすく提供します。 ア 協会に関する情報 イ 各施設の情報 ウ 事業案内、研修案内 エ 青少年体験活動推進センターからの情報 オ 青少年指導者・NPO情報センター(仮称)からの情報 カ その他(青少年育成情報紙のインターネット版、他)				
(20)	青少年の居場所づくり支援事業	横浜市の青少年問題協議会が設置した検討委員会の2年間の検討内容および、モデル事業の検証結果をふまえ、全市的に青少年の居場所を広げていくための取り組みを実施します。				
(21)	横浜災害ボランティアネットワークへの参加と支援	災害時にボランティア活動が効果的に行われるよう、市内のボランティア推進機関や団体との連携を強化するために、ネットワーク会議の活動を支援していきます。なお、ネットワークの事務局を引き続き担って行きます。				
(22)	基金募集事業の実施(爆笑!濱っ子寄席)	基金募集のため「爆笑!濱っ子寄席」等の基金募集事業を実施します。				
(23)	基金箱の製作と設置場所拡大	現在70箇所ほど設置している基金箱が老朽化しているため、基金箱を製作し、継続的な基金募集事業を展開します。また設置場所の拡大に取り組みます。				
(24)	基金委員会	基金の有効活用を図るため、委員会を設置します。				
(25)	協会の事業への企業協賛の獲得	自主財源の充実を図り、協会事業の拡大を行うため企業協賛の獲得に努めます。				
(26)	会員募集キャンペーンの実施	協会を市民に周知し、青少年育成についての理解を深め、協会とともに青少年育成を推進する協力者を拡大するために、昨年度に引き続き愛称・シンボルマークの募集を行い、同時に会員募集のキャンペーンを行います。				
(27)	『協会だより』発行	協会の動きや参加可能な事業等をお知らせし、協会事業への参加及び、協会への理解を深めます。				
(28)	会員交流会	協会への理解と会員相互の交流を図るため交流会を実施します。				
(29)	職員研修の充実	職員の資質向上や、業務水準の向上を図るため、課を単位とした職場研修に併せ、職員全体が一同に会し、相互に事業の成果や課題を発表・討議する「職員研究交流集会」を開催します。				
(30)	事業評価プロジェクトの設置	事業の実施効果などについて、内外から客観的な評価を受け、改善し、よりよい施策を展開するため、「事業評価プロジェクト」を設置するとともに、事業評価を試行実施します。				
(31)	組織・事務・人事給与制度検討チームの設置	職員及び外部の識者による組織・事務・人事給与制度検討チームを設置し、人事考課制度や給与制度等について検討します。				

目的

柱

施策項目

青少年の主体性や創造性を育み、心豊かな成長を図るための事業を企画・実施するとともに、青少年の活動、青少年育成者、団体等の市民活動を支援する。

A

青少年に体験機会を提供する

青少年に科学・自然・交流等の体験や社会参加活動の機会を提供する

- 1. 青少年が直接体験するための事業の実施
- 2. 青少年の自主的な活動の社会参加事業の実施
- 3. 青少年への科学知識の普及・啓発事業の実施
- 4. 横浜市青少年交流センターの管理運営
- 5. 横浜市野島青少年研修センターの管理運営
- 6. 横浜こども科学館の管理運営

事業体系図

青少年の活動のすそ野を広げるための支援

- 1. 青少年育成活動団体、市民活動団体、区役所や地域施設等との連携事業の実施
- 2. 青少年のボランティア体験・社会参加の相談・コーディネート・環境整備
- 3. ボランティア活動体験機会の提供

青少年支援事業の実施

- 1. 放課後における児童の育成
- 2. 不登校・ひきこもり・ニート等の支援事業

B

情報提供等により青少年をとりまく地域社会を育てる

青少年リーダーや青少年指導者の養成

- 1. 青少年育成活動に取り組む指導者、育成者、NPOの養成事業
- 2. 青少年4施設連携の講座・研修事業

青少年育成活動に取り組む指導者・育成者・NPO等の支援

- 1. 横浜市青少年育成センターの管理運営
- 2. 青少年指導者・NPO情報センター事業
- 3. 情報紙の発行
- 4. インターネットを活用した情報提供

C

協働により青少年の育成主体を支援する

地域が主体的に取り組む青少年事業の支援

- 1. 地域が取り組む青少年の活動拠点づくり事業への支援
- 2. 地域、団体等の活動支援

青少年の育成主体との連携と協働

- 1. 市民活動団体、ボランティアグループ、地域組織、企業、行政等との連携と協働事業の実施

D

財務・組織基盤の充実

財務基盤の強化

- 1. ボランティア育成基金の充実
- 2. 企業協賛、物品販売等による自主財源拡充

組織基盤の強化

- 1. 会員の充実
- 2. 協会組織の充実

主 な 事 業 名

A- -1

海・ふれあい・体験プログラム事業、市民活動体験塾、さわやかフレンドキャンプ、野島クリスマスキャンプ、ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル2006、青少年4施設での青少年対象事業

A- -2

ボランティア基礎講座、青少年4施設でのボランティア活動の場の提供

A- -3

企画展、ゴールデンウィーク・夏休みイベント、コンピューター教室、実験工作教室、体験スタジオ、天文教室、講演会、サイエンスキャンプ

A- -4

青少年委員会の充実、青年ボランティアの養成、ロビーワークの充実、運営の検証と改善(運営委員会)、場の提供(自主的な活動の場、多様な個別支援の場、社会性を身につける場、地域や保護者との連携と交流の場、将来について考えていける場)

A- -5

自然体験プログラムの研究・開発・相談・提供、活動相談体制の強化、運営の検証と改善(アンケート調査)、集団宿泊体験の場の提供、講座・研修会、自然体験・交流事業

A- -6

体験できる展示物の展示・メンテナンス・開発・改良、夏休み特別展、夏休み・年末年始特別プログラム、科学実験ショー、宇宙劇場の管理運営、運営の検証と改善(アンケート調査・モニター評価制度)

A- -1

地域子ども教室、青少年4施設での地域等との連携事業

A- -2

青少年体験活動推進センターの運営

A- -3

青少年が直接体験するための事業(A- -1)の企画運営への青少年の参画推進、青少年4施設での場の提供

A- -1

放課後キッズクラブの運営、放課後児童育成に係る保険事業

A- -2

不登校・ひきこもり支援団体・組織の支援、フリーター・ニート対策事業

B- -1

子どもの遊びサポート事業、青少年育成情報紙『ボランティア横浜』の発行、校教育と連携した地域人材の活用システム事業の推進、PTA新聞づくり講習会

B- -2

(1)青少年4施設で実施する講座・研修を活用した総合的な養成カリキュラムの企画

B- -1

青少年指導者・育成者の活動の場の提供、青少年活動団体の事務局機能支援、運営の検証と改善(運営委員会)

B- -2

情報収集提供・相談・コーディネート、講座・研修、ネットワーク支援、地域活動支援

B- -3

広報出版事業

B- -4

協会ホームページによる情報提供(含:青少年4施設のホームページ)

C- -1

青少年の居場所支援事業

C- -2

青少年指導者・NPO情報センター事業(B- -2)

C- -1

横浜災害ボランティアネットワークへの参加と支援、金沢区災害ボランティアネットワークへの参加と支援、『金沢水の日』実行委員会への参加と支援

D- -1

基金募集事業の実施(爆笑!濱っ子寄席)、基金箱の製作と設置場所拡大、基金委員会

D- -2

科学館の売店・利用者駐車場運営、協会の事業への協賛企業の獲得

D- -1

会員募集キャンペーンの実施(愛称・シンボルマーク)、『協会だより』発行、会員交流会

D- -2

職員研修の充実、事業評価プロジェクトの設置、組織・事務・人事給与制度検討チームの設置